

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 26
2017・11・19

1 動物実験を回避する目的での革新的な研究に賞を授与（2017・11・15）
一連邦食料・農業大臣が第36回動物保護研究賞を授与一

シュミット大臣は、ベルリンのカイザーリン フリードリッヒ ハウスにおいて、25 000 ユーロ（約 300 万円）の賞金を授与した。この賞は、動物実験を代替または制限する手法や手段の発展に貢献した、革新的そして将来を先取りした科学活動について公募した。今年の実賞は、大学講師 Dr.Alexander S.Mosig の人間の器官組織モデルの開発と発展のための着想に対して授与された。

これについて連邦大臣シュミットが説明した：

”私の目的は、動物実験を絶対に必要な程度に制限し、そして実験動物の可能な限りの保護を、保証することである。そのため、私は自身のイニシアチブ ”家畜の福祉の問題一より多くの家畜の福祉のための新しい方法” において、2015 年秋に連邦リスク評価研究所（BfR）に、実験動物保護のためのドイツセンターを開設した。同時にドイツは、動物実験の代替え方法の発展について、先導的な役割を担っている。

私の省は、毎年の動物保護研究賞の授与でもって、動物実験の代替え方法の研究を促進している。私の謝意は、動物実験を将来的に不要なものとする研究者（受賞者）Dr.Alexander S. Misig と彼の作業グループ・インスピレーションのような科学者に向けられている。

受賞者 Dr.Alexande S.Mosig の補足説明：

我々は、人間の器官の異なる機能の複製品のために、大学付属病院でイエーナバイオチップシステム（訳注）を、実験室で発展させた。我々は、この ”器官チップ” システムを、感染と炎症の原因調査のための基礎研究に用いている（特に治療法の開発において）。我々は、医学、化学そして薬理学分野の同僚との共同研究において、このシステムでもって既に数回の動物実験に代えることに成功している。

我々は、第 36 回動物保護研究賞の受賞を非常に喜んでいる。そしてその中で我々の研究をさらに強化し、同時に将来において動物実験の完全なる廃止のための貢献への刺激とみている。

背景

この動物保護研究賞は 2001 年以来、連邦食料・農業省が授与している。この賞は、1980 年から 2000 年まで連邦研究省 (BMG) が授与してきた。この賞の授与決定は、中立の審査委員会の提案によって行われる。今日既に細胞培養、コンピュータの支援による手法、そしてさらなる代替方法によって、多くの問題に応えることができるにも拘わらず、科学上の目的のために動物の投入が、まだ完全に断念されてない (特に医学上の研究において)。

審査委員会の構成メンバー：

- ・教授 Dr.Spielmann 氏 ベルリン自由大学
- ・教授 Dr.Schäfer-Koting 夫人 ベルリン自由大学
- ・教授 Dr.Schönfelder 氏 連邦リスク評価研究所
- ・Dr.Garthoff 氏 ベルリンフンボルト大学及びベルリン
自由大学附属病院
- ・Kolar 氏 ドイツ動物保護連盟／動物保護アカデミー
- ・Christiane Wiemann 夫人 ドイツ総合化学製造会社

訳注：バイオチップー DNA、蛋白質などの生体分子を、半導体製造における微細加工技術を応用し、基板上に固定したもの。DNA チップとも呼ばれる。

2 家畜飼育のための国際対話 (2017・11・17)

ー 2018 年ベルリン世界食料会議ー

家畜生産の将来は具体化されるー持続的、責任意識をもったそして効率的にーこのモットーのもとに”食料と農業のための世界フォーラム (GFFA) が、2018 年 1 月 18 日から 20 日に、ベルリンで開催される。この間に政治、経済そして民間の代表者が、第 10 回目のこの会議に参加した。世界農業ー食品業の中心的な将来問題について、国際対話で意見交換する。”

増大する需要と持続可能性との間の緊急分野における家畜の飼育

世界人口の増大と向上する裕福さでもって、畜産製品の需要が世界的に高まっている。この需要増をカバーするために、生産を高めることが重要である。その中で畜産物の流通が、明らかに強化されるという前提から出発する。同時に環境一気象に適応した畜産物の生産、並びに家畜の福祉に対する要請が大きくなっている。家畜の健康上のリスクに対して、国際的な共同活動の強化が求められている。

この挑戦のための問題解決は、家畜飼育の将来にとって極めて決定的である。また多くの農村地域においては、重要な経済要因でもある。世界フォーラムでは、以下のテーマ分野が議論される。

- ◎ 食料一消費動向の配慮のもとにしたさらなる市場進展
- ◎ 農村地域の経済要因としてそして食料確保のための家畜飼育の重要性
- ◎ 家畜の福祉と健康の奨励
- ◎ 持続的な生産の問題（その土地に適した生産と飼料の準備、気象保護と水一土壌資源の持続的な取り扱い）

家畜生産の将来的発展のための刺激

食料と農業のための世界フォーラムーベルリン世界食糧会議は、国際対話の中で家畜生産の挑戦とチャンスのために、より多くの理解を發展させる可能性を提供する。さらにより強化された国際共同の分野において、問題解決のための方法を手にすべきである。世界フォーラムー2018のもとで開催される多様な行事は、国際レベルでの家畜生産の挑戦とチャンスのテーマ分野において、将来的な発展のための刺激を与える。このフォーラムは2009年以来、食料確保の主要テーマのもとで、毎年「国際緑の週間」にベルリンで開催されている。

3 果汁飲料とアルコール飲料に係る栄誉賞を授与（2017・11・7）

連邦食料・農業省の政務次官ブレーザーは、今日（11月7日）ベルリンのロードビッヒ エアハード ハウスにて、2017年度の果汁ーアルコール飲料に係る連邦賞を授与した。これに関するDLG（ドイツ農業協会）一品質審査は、毎年実施されている。表彰されたのは、DLG-品質審査において最も良い総合結果を得た製造者である。

” このコンクールの参加者としてのこれら産品は、消費者のための食品についての品質の客観的な評価が、常に重要であることを示している” と、ブレイザーが賞の授与に際して強調した。今年もまた極端な気象が果物シーズンを、特徴づけた。リンゴの収穫とフルーツジュース製造のためにも重要な散在果樹（訳注）の生産は、4月に激しい霜害に巻き込まれた。収穫の見込みは、昨年よりも少ない。

” 年末で終わる火酒（アルコールの多い蒸留酒）の販売でみると、DLG 一品質審査への成果ある参加が、酒類の自由な販売市場で、消費者のための信頼における購入決定指標となっている” と、ブレイザーが述べた。ブレイザーは、EU 果樹酒基本規定の改正にも言及した。連邦政府は、そのために果樹酒のための高度な品質基準の保持に、尽力している。2017年度 DLG 一品質審査において、260の果実飲料・果実酒製造の経営・企業が参加した。

これら経営・企業は、品質審査の 20 分野に 1460 の産品を出品した。そのうち、果汁飲料工場から約 900 産品、そして果実酒工場よりもむしろ、小規模醸造所から約 560 産品が出された。この中で最も良い成績を示した果汁及び果樹酒が、それぞれ 8 品ずつ連邦栄誉賞で表彰された（それぞれ金、銀 1 品、残りは銅）。

DLG は国内外から食料嗜好品合計約 3000 品を、品質審査している。この品質審査は、センサー検査並びに抜き取り検査による化学的、微生物学的または物理学的調査によっている。センサー検査上問題なく、そして全ての品質基準を満たした食品についてのみ、表彰される。

訳注：散在果樹―牧草地や畑地に鳥類や昆虫の繁殖を助けるために、1本ないし数本の果樹を栽培している。生態系保護のために無農薬で栽培し、政府の補助対象になっている。

2017・11・18 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
